

2022年8月 旅行取扱高状況報告

< 旅行区分別 >

(単位：千円)

| 区 分 | 取 扱 高 | 前年同月取扱高 | 前年同月比 | 2019年同月取扱高 | 2019年同月比 |
|------|------------|-----------|----------|------------|----------|
| 海外旅行 | 6,721,606 | 573,691 | 1,171.6% | 47,516,313 | 14.1% |
| 国内旅行 | 6,035,319 | 1,747,560 | 345.4% | 7,709,852 | 78.3% |
| 訪日旅行 | 28,097 | 7,507 | 374.3% | 2,325,200 | 1.2% |
| 合 計 | 12,785,022 | 2,328,758 | 549.0% | 57,551,365 | 22.2% |

上記、月次取扱高は、エイチ・アイ・エス及び同グループ 5 社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高の合計となります。また、コロナ以前と比較をするため、2019年同月比を基準に記載しております。

1. 海外旅行

新型コロナウイルス感染症の水際対策の規制緩和として、出発前 72 時間以内を受けた PCR 検査の陰性証明書を取得により日本出国後 3 日以内の短期滞在の海外旅行であれば、帰りの PCR 検査が不要となったことを受けて、「帰国前 PCR 検査不要プラン&キャンセルサポート付きプラン」の深夜便を活用した Guam、タイ、シンガポール、ハワイ行きツアー商品の展開を図るなど、刻々と変わる入国条件に合わせた商品造成と情報の認知に努めてまいりました。また、2 年半ぶりに韓国への観光ビザ取得が免除となったことを受け、韓国観光公社と共同で「韓国解禁キャンペーン」を実施したこともあり、韓国への送客数が先月比で、280%の伸びを示すなど、段階的ではあるものの海外渡航再開の動きがみられました。

しかしながら、日本発着による国際線の航空座席供給数に制限が続いていることから、2019年同月比においては、まだ本格的な回復までには至っておりません。

以上の結果、海外旅行の取扱高は、前年同月比 1,171.6%、2019年同月比 14.1%の 67 億 2,160 万円となりました。

2. 国内旅行

国の観光支援である「県民割」・「地域ブロック割」を延長する都道府県が多く、3 年ぶりの行動制限のない夏のレジャーシーズンを迎える中、新型コロナウイルス感染症による第 7 波の感染拡大がみられました。そのような環境の下、国内旅行を迷われているお客様に予約の後押しをする HIS 独自の施策として、万が一新型コロナウイルスに感染し旅行をキャンセルとなった場合、取消料を全額 HIS にて負担する「国内旅行応援キャンペーン」の展開を図るなど、国内旅行需要喚起に努めてまいりました。

また、5 月下旬より実施していた「SUPER SUMMER SALE! 2022」の施策が、8 月出発の送客増加に寄与しており、特に、人気観光地である沖縄と北海道においては、主にファミリー層の送客数を押し上げました。

以上の結果、国内旅行の取扱高は、前年同月比 345.4%、2019年同月比 78.3%の 60 億 3,531 万円となりました。

3. 訪日旅行

新型コロナウイルス感染症の水際対策として、1 日当たりの入国者数上限 2 万人、出国前 72 時間以内の PCR 検査での陰性証明書の提示、添乗員を伴う団体ツアー参加者であり、すべての訪日外国人旅行者は、査証の取得が必要といった、厳しい条件が引き続き継続されており、規制緩和の動きはなく、レジャー需要の回復には時間を要する状況が続き、訪日旅行の取扱高は、前年同月比 374.3%、2019年同月比 1.2%の 2,809 万円となりました。

以上の結果、2022年8月の取扱高総計は、前年同月比 549.0%、2019年同月比 22.2%の 127 億 8,502 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス

I R 室：050-1746-4188

広報室：050-1746-4177